

# 自分たちの住む街・働く街を美しく

## 復興の願いを コスモスにこめて

愛媛県立大洲高等学校



家庭クラブのみなさん



一枚一枚に思いやりのメッセージが込められた

**平** 成は自然災害の多い時代でした。「平成30（2018）年7月豪雨」では、西日本を中心に大きな被害がでたのは、記憶に新しいところです。令和2（2020）年度、創立120周年を迎える大洲高等学校は、長年にわたり様々な地域貢献活動を行い、「地域に愛される学校づくり」を目指しています。

7月豪雨で、大洲市は甚大な被害を受けました。生徒たちはさつそく、断水した地域に手洗いのための水をもつたメッセージに感激。市内各所でコスモスを育ててくださり、秋にはたくさんのコスモスが、被災して気落ちした地域の方々の心を癒しました。

「コスモスの花」コンクールでは最大賞を受賞した同校。これからも地域のために役立ちたいと、決意を新たにしています。

届ける「ペットボトル大作戦」を行しました。さらに、家庭クラブの生徒は、「コスモス」を復興のシンボルフラワーにしようと、愛媛県本部（事務局：伊予銀行）が種子を提供し、開花状況などを審査する「コスモスの花」コンクールに応募。親切運動のシンボルフラワーでもあるコスモスで、花いっぱいの街づくりに取り組み、「水害がもう起こりませんように」「コスモスで大洲市が元気になりますように」とのメッセージを添えたコスモス種子を、地域のイベントやボランティア先で配布しました。

地域住民は、生徒たちの願いがこもったメッセージに感激。市内各所でコスモスを育ててくださり、秋にはたくさんのコスモスが、被災して気落ちした地域の方々の心を癒しました。

江 戸幕府の御米蔵（浅草御蔵）があつたことが地名の由来となっている、東京都台東区・蔵前。この地に、創業なんと明治25年、カーヤマト屋（代表取締役社長：正田誠）があります。

同社には、「礼儀・規律・清潔・整理・整頓・健康・安全」の7項目を整え、「環境整備で業界日本一を目指す」という基本方針があり、その一環として30年以上、地域の環境美化に力を入れてきました。

平成22（2010）年、社屋が蔵前に移転してからは、「大江戸清掃隊」と称し、週一回、全社員がごみ拾いや除草、道路についたガムはがしだけ丁寧に清掃を行い、地域の会社や住民に大変喜ばれています。

この活動を支えるのは、先代の正田喜代松氏（現・取締役会長）から

## 「人は人のために 共に生きてこそ 人なり」

東京都 株式会社ヤマト屋



揃いのはっびを着て清掃

う経営理念。清掃活動を通じて、地域への愛着心や人を思いやる心を培い、仕事に活かしてほしいとの願いが込められています。

蔵前は、製造業や問屋が多くある「モノづくりの街」ですが、近年、おしゃれな雑貨店やカフェが増え、散策スポットとしても注目されています。散策の際には、「蔵前を訪れる方に気持ちよく過ごしてもらいたい」と、清掃に汗を流す社員の皆さんに、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



「小さな親切」実行章を贈呈  
(左から)正田喜代松会長、運動本部小林副代表、正田誠社長